

[D年] 聖霊降臨日(2020年5月31日)

【旧約聖書日課】エゼキエル書 37章1~14節

1主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。2主はわたしに、その周囲を歩き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく枯れていた。3そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」4そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。5これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。6わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。そして、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。」

7わたしは命じられたように預言した。わたしが預言していると、音がした。見よ、カクカクと音を立てて、骨と骨とが近づいた。8わたしが見ていると、見よ、それらの骨の上に筋と肉が生じ、皮膚がその上をすっかり覆った。しかし、その中に霊はなかった。9主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」

10わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。

11主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。12それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を聞く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。13わたしが墓を聞いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。14また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住ませる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われる。

【使徒書日課】使徒言行録 2章1~11節

1五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、2突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。3そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

5さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、6この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。7人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。8どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。9わたしたちの中には、バルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、10フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、11ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞くとは。」

【福音書日課】ヨハネによる福音書 14章15~27節

15「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。16わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。17この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。18わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。19しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。20かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。21わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」22イスカリオテでない方のユダが、「主よ、わたしたちには御自分を現そうとなされるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか」と言った。23イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。24わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。」

25わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。26しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。27わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

エゼキエル書 37章1～14節

1主の手が私に臨んだ。主はその霊によって私を連れ出し、平野のただ中に私を置いた。そこには骨が満ちていた。2主は私にその周囲を歩き巡らせた。すると、その平野にはおびただしい骨があり、それは枯れ果てていた。3主は私に言われた。「人の子よ、この骨は生き返ることができるか。」私は言った。「主なる神よ、あなたはご存じです。」4主は私に言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。5主なる神はこれらの骨にこう言われる。今、私はあなたがたの中に 霊〔別訳→息〕を吹き込む。するとあなたがたは生き返る。6私はあなたがたの上に筋を付け、肉を生じさせ、皮膚で覆い、その中に霊を与える。するとあなたがたは生き返る。こうして、あなたがたは私が主であることを知ることになる。」

7私は命じられたように預言した。私が預言していると、音がした。地響きがし、骨と骨とが近づいた。8私が見ていると、それらの上に筋ができ、肉が生じ、皮膚がその上を覆ったが、その中に霊はなかった。9主は私に言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言え。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹いて来い。これら殺された者の中に吹きつけよ。すると彼らは生き返る。」10私が命じられたように預言すると、霊が彼らの中に入った。すると、彼らは生き返り、自分の足で立ち、おびただしい大軍となった。

11主は私に言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルのすべてである。彼らは、『我々の骨は枯れ、我々の望みはうせ、我々は滅びる』と言っている。12それゆえ、預言して彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。私の民よ、私はあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げ、イスラエルの地に導き入れる。13私の民よ、私があるあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げるとき、あなたがたは私が主であることを知ることになる。14私があるあなたがたの中に霊を与えると、あなたがたは生き返る。私はあなたがたを自分の土地に安住させる。その時、あなたがたは主である私がこれを語り、行ったことを知ることになる——主の仰せ。」

使徒言行録 2章1～11節

1五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まっていると、2突然、激しい風が吹いて来るような音が天から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。3そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話した。

5さて、エルサレムには天下のあらゆる国出身の信仰のあついな 人々〔異本→ユダヤ人〕が住んでい

たが、6この物音に大勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられた。7人々は驚き怪しんで言った。「見る、話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。8どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉を聞くのだろうか。9私たちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、10フリギア、パンフィリア、エジプト、リビアのクレネ側の地方に住む者もいる。また、滞在中のローマ人、11ユダヤ人や改宗者、クレタ人やアラビア人もいるのに、彼らが私たちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

ヨハネによる福音書 14章15～27節

15「あなたがたが私を愛しているならば、私の戒めを守るはずである。16私は父にお願いしよう。父はもうひとりの弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。17この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、それを受けることができない。しかし、あなたがたは、この霊を知っている。この霊があなたがたのもとに おり〔直訳→どまり〕、これからも、あなたがたの内にいるからである。18私は、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。19しばらくすると、世はもう私を見なくなるが、あなたがたは私を見る。私が生きているので、あなたがたも生きることになる。20かの日には、私が父の内におり、あなたがたが私の内におり、私があるあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。21私の戒めを受け入れ、それを守る人は、私を愛する者である。私を愛する人は、私の父に愛される。私もその人を愛して、その人に私自身を現す。」22イスカリオテでないほうのユダが、イエスに言った。「主よ、私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか。」23イエスは答えて言われた。「私を愛する人は、私の言葉を守る。私の父はその人を愛され、父と私とは〔直訳→私たちは〕その人のところに行き、一緒に住む。24私を愛さない者は、私の言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉は私のものではなく、私をお遣わしになった父のものである。」

25私は、あなたがたのもとにいる間、これらのことを話した。26しかし、弁護者、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、私が話したことをことごとく思い起こさせてくださる。27私は、平和をあなたがたに残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・5月31日「聖霊降臨日」の聖書日課主題は「聖霊の賜物」。「復活日(イースター)」から50日目、すなわち七週後の日曜日が「聖霊降臨日(ペンテコステ)」。「使徒言行録」2章で「五旬祭」と訳されているギリシア語「ペンテコステス」は「50番目(の日)」という意味の語の女性形で、ユダヤ教の祭りの一つである「七週祭(シャブオット)」を指す語として用いられている。「七週祭」は、「過越祭(ペサハ)」から七週後に祝われ、「仮庵祭(スコット)」と共に三大祭として「トーラー(律法)」に規定された祭(レビ記23章など)。

・「聖霊降臨日」は、伝統的な西方教会暦では「復活節」の最終日に位置づけられ、「聖霊降臨祭」も「復活祭」の後祭とみなされてきた。これは、西方教会における聖霊神学の軽視の影響を受けたものと考えられるが、近年、「聖霊派(ペンテコステ派/カリスマ運動)」の隆盛に応じて聖霊神学が再考されるようになり、教会実践においても、「聖霊降臨祭」の独自性を強調するような傾向が生まれてきている。その具体的な動きとして、近年、「聖霊降臨日」以後次の「待降節」前までの期節に「聖霊降臨節(または聖霊降臨後)」の呼称を充てる教派が増えてきている。

・「聖霊降臨日」の聖書日課は、伝統的には旧約日課が省かれて、「使徒言行録」2章と福音書日課のみが定められてきた。教団聖書日課では、他の主日と同様に旧約、使徒書、福音書の各日課を定めている。

旧約日課(エゼキエル 37章より)

・「エゼキエル書」は、旧約の「三大預言書」の一つ。南王国が滅亡へと向かいバビロン捕囚が始まった時期にバビロンに連行された祭司身分のエゼキエルが預言者としての召命を受けて預言した預言の集成。イザヤ書やエレミヤ書と比べて終末的視点が強く、黙示文学の影響を受けた独特の幻視表現が特徴となっている。新約での引用例は少ないが、神学的な影響を強く与えていると考えられる。

・日課箇所は、「民の復活預言」と呼ばれる箇所。エゼキエル書では、ユダ(南王国)の滅亡とその罪過、また諸国の罪過を告げる預言が語られた後、33章以降で「見張り」の役割を務める者(預言者?)が、イスラエルの再興を預言として告げている。日課箇所では、そのイスラエルの「民」としての再生が「枯れた骨の復活」というイメージで告げられており、ここには「個々人の復活」という視点はない。旧約正典には、キリスト教的な「復活信仰」を明言する箇所はないが、このエゼキエルの預言や、他の預言書、ダニエル書などの告げる「終末」信仰などが総合されて、紀元前後のユダヤ教では、一定の割合で「(個々人の)復活信仰」がすでに共有されていたと考えられる(ファリサイ派は復活を信じ、サドカイ派は復活を否定していた

とする言説が、新約中に繰り返し見られる)。初期教会は、ファリサイ派出身者を中心に形成されたので、正典に基づかなくとも「口伝律法」として教えられる「復活信仰」を受け入れた信仰理解を前提としていたことは間違いないが、新約諸文書が整えられていく中で、旧約正典の言説との整合性が求められた(初期教会は、ラビたちの伝承を退けて、主イエスの「新しい律法」に立脚する信仰理解を成立させた)。そこで、新約における「復活信仰」には、個々人の復活を示唆する側面が多々あるにもかかわらず、神学的には、ほぼ旧約中唯一の「復活」に関する言及であるエゼキエルの預言(日課箇所)に基づいた「民の復活」としての「復活神学」に重心を置くようになっている。

使徒書日課(使徒言行録 2章より)

・「使徒言行録」は、「ルカ福音書」の続巻として著された文書で、初代教会の形成史を伝えている。その初めとして描かれるのが、主イエスの昇天と、それに続く聖霊降臨の出来事である。日課箇所は、聖霊降臨の出来事を物語る伝承で、2章全体で一つの逸話となっている。

・「五旬祭」=「七週祭」は、小麦収穫祭が元になって、そこに出エジプト物語における「律法授与」の記念が加えられる形で祝われてきた(モーセは、エジプトを出て三月目に四十日シナイ山にこもって律法を授与された=出エジプト19章)。ファリサイ派を中心に生き残った「ラビ的ユダヤ教」の会堂では、この祭りに際して、律法と預言書の朗読のほか、ルツ記が朗読されてダビデ王家における異民族的ルーツが明示されるという営みが続けられてきた。これは、ユダヤ教におけるユダヤ主義の克服と普遍主義への志向性として理解される。キリスト教会における「ペンテコステ」には、ユダヤ主義を克服する普遍主義への一歩として「聖霊降臨」を理解する視点が明確にあるが、「七週祭」で記念される「律法授与に基づく民の形成」という正典神学が、そもそも普遍主義に向かわせる指向性を内包していたと考えることができる。

福音書日課(ヨハネ 14章より)

・日課箇所は、主イエスと弟子たちの最後の晩に交わされた対話の一部。御父からの聖霊派遣を主イエスが約束されている。ここで、聖霊は、弟子たちの前から見えなくなる主イエスに代わるものであるが、何よりも、主イエスが語られた御父の御言葉を教える存在である。しかし、使徒言行録が聖霊を「民/教会」という実体の中で理解しているのに対して、ヨハネ福音書は必ずしも実体的に聖霊を理解しておらず、「地上を歩まれた主イエスと結びつくことが、また、その主イエスと結びついた弟子たちと結びつくことが、天で御父と結びつかれている主イエスと結びつくことでもある」という理解を保証するものとして「聖霊の約束」を位置づけている。

来週の誕生日 (5月31日～6月6日)

主日礼拝の讃美歌から

- ・21-343 番「聖霊よ降りて」(= I 499 番)は、19 世紀米国メソジスト教会の牧師ストークスの作詞。曲は、日本のメソジスト派讃美歌集『譜附基督教聖歌集』(1884 年)の編纂に際して依頼して作曲された。
- ・21-476 番「あめなるよろこび」(= II 150 番)は C.ウエスレーの代表的な讃美歌の一つ。『讃美歌 21』で改訂されている。曲は、ドイツ生まれでアメリカで活躍した音楽家ザンデルの作。日本では別の曲(475 番 = I 352 番)との組み合わせで歌われてきたが、米国では 476 番の曲、英国では別の曲が標準になっている。
- ・21-342 番「神の霊よ、今くだり」(= I 183 番)は、19 世紀の英国教会司祭で盛期はもっぱらロンドンで文学活動をしたジョージ・クローリーの作詞。曲は、19 世紀英国の教会音楽家 F.C.アトキンソンが別の讃美歌(218 番「日暮れてやみはせまり」の歌詞)のために作曲したものを転用。

21-343「聖霊よ、降りて」=I499

Hover o'er me, Holy Spirit

1. Hover o'er me, Holy Spirit,
Bathe my trembling heart and brow;
Fill me with Thy hallowed presence,
Come, oh, come and fill me now.
- Refrain:
Fill me now, fill me now,
Holy Spirit, fill me now;
Fill me with Thy hallowed presence,
Come, oh, come, and fill me now.
2. Thou canst fill me, gracious Spirit,
Though I cannot tell Thee how;
But I need Thee, greatly need Thee,
Come, oh, come and fill me now. [Refrain]
3. I am weakness, full of weakness,
At Thy sacred feet I bow;
Blest, divine, eternal Spirit,
Fill with pow'r, and fill me now. [Refrain]
4. Cleanse and comfort, wholly save me,
Bathe, oh, bathe my heart and brow;
Thou dost sanctify and seal me,
Thou art sweetly filling now. [Refrain]

21-476「あめなるよろこび」=II150

Love Divine, All Loves Excelling

1. Love divine, all loves excelling,
Joy of heaven to earth come down;
Fix in us thy humble dwelling;
All thy faithful mercies crown!
Jesus, Thou art all compassion,
Pure unbounded love Thou art;
Visit us with Thy salvation;
Enter every trembling heart.
2. Breathe, O breathe Thy loving Spirit,
Into every troubled breast!
Let us all in Thee inherit;
Let us find that second rest.
Take away our bent to sinning;
Alpha and Omega be;
End of faith, as its Beginning,
Set our hearts at liberty.
3. Come, Almighty to deliver,
Let us all Thy life receive;
Suddenly return and never,
Never more Thy temples leave.
Thee we would be always blessing,
Serve Thee as Thy hosts above,
Pray and praise Thee without ceasing,
Glory in Thy perfect love.
4. Finish, then, Thy new creation;
Pure and spotless let us be.
Let us see Thy great salvation
Perfectly restored in Thee;
Changed from glory into glory,
Till in heaven we take our place,
Till we cast our crowns before Thee,
Lost in wonder, love, and praise.

21-342「神の霊よ、今くだり」

Spirit of God, descend upon my heart

1. Spirit of God, descend upon my heart;
Wean it from earth, through all its pulses move;
Stoop to my weakness, strength to me impart,
And make me love you as I ought to love.
2. I ask no dream, no prophet ecstasies,
No sudden rending of the veil of clay,
No angel visitant, no op'ning skies;
But take the dimness of my soul away.
3. Have you not bid me love you, God and King;
All, all your own, soul, heart, and strength, and mind?
I see your cross; there teach my heart to cling.
Oh, let me seek you and, oh, let me find!
4. Teach me to love you as your angels love,
One holy passion filling all my frame:
The baptism of the heav'n-descended dove,
My heart an altar, and your love the flame.

(Lutheran Book of Worship #486)